

令和4年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) 国補 ・ 県単

事業名	農地整備事業 [畑地帯総合整備事業 (国補)]		事業箇所	山梨市七日市場・下井尻	地区名	日下部	事業主体	山梨県
-----	-------------------------	--	------	-------------	-----	-----	------	-----

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H24~H29	H24~R5	H24~R6
総事業費	1,900 百万円	2,367 百万円	2,717 百万円

④特記事項 (関連事業概要等)
・なし

(1) 事業の概要

①事業目的及び効果

本地区は甲府盆地の北東部に位置し、もも・ぶどう・かきを基幹作物とした農業が営まれている県内有数の果樹産地である。
しかしながら、地域内の農道は幅員が狭く、農作業車両の乗り入れが困難であることや、狭小で不整形な農地が多いことから機械作業の導入が進まず、人力作業を中心とした営農体系であったため、担い手への農地集積が進んでいなかった。
このため、営農条件を改善することにより、持続的な果樹生産の維持、発展に取り組むことを目的として事業を実施している。

- 主要目標 ○農業生産力の向上
(面積当たりの農業所得増加額：825千円/ha \geq 810千円/ha)
- 副次目標 ○農業用排水能力の向上
○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上
- 副次効果 ○遊休農地の解消
○果樹園景観の保全

②事業概要

	現計画	変更計画	現計画	変更計画
用排水路	L=4,852m	L=4,409m	区画整理	A=42.5ha → A=34.3ha
農道	L=3,299m	L=3,087m		

③全体計画

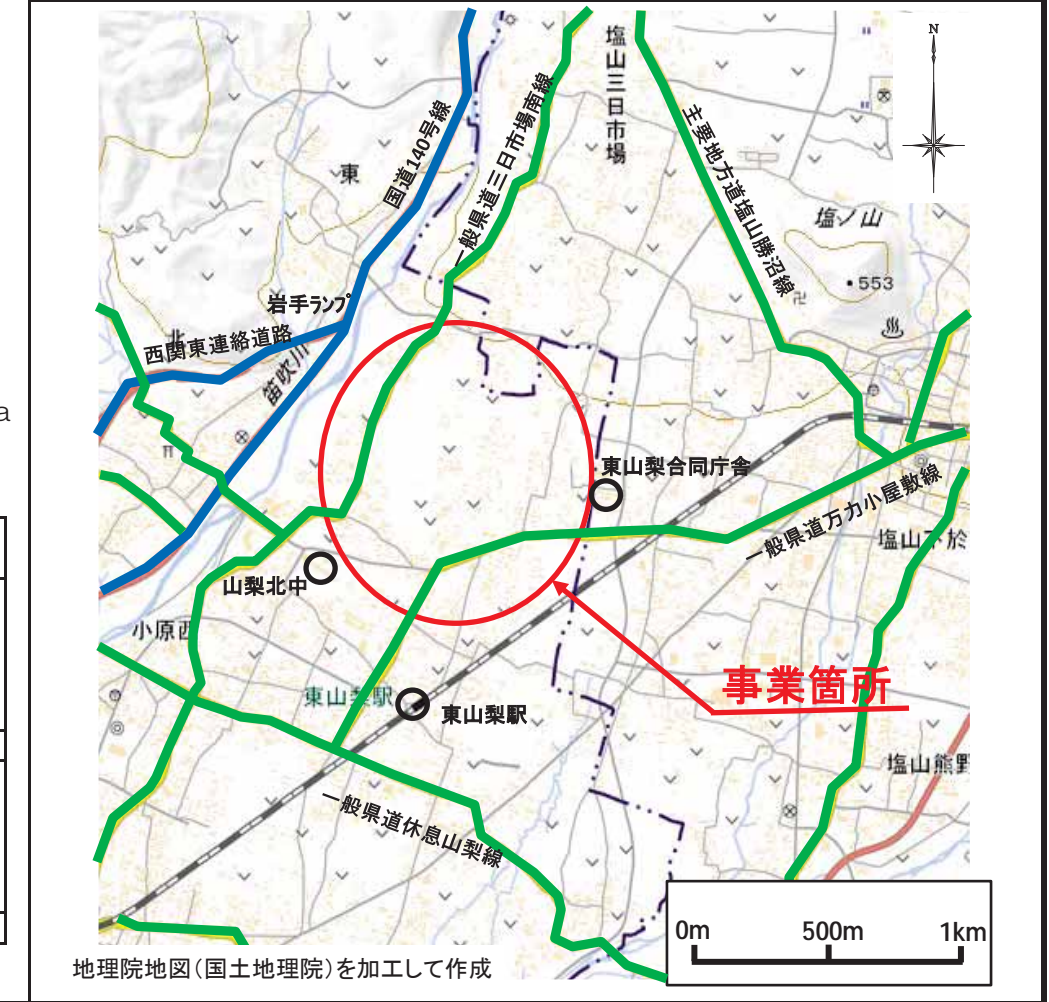
		令和3年度まで	令和4年度 (評価実施年度)	令和5年度以降
現計画	工事内容	用排水路L=4,617m 農道L=2,767m 区画整理A=35.0ha	用排水路L=235m 農道L=320m 区画整理A=2.5ha	農道L=212m 区画整理A=5.0ha
	事業費	2,130 百万円	168 百万円	69 百万円
変更計画	工事内容	用排水路L=4,053m 農道L=2,727m 区画整理A=18.8ha	用排水路L=258m 農道L=360m 区画整理A=2.0ha	用排水路L=98m 区画整理A=13.5ha
	事業費	2,127 百万円	173 百万円	417 百万円

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

⑤これまでの評価状況 (平成23年度事前評価)

本事業は、産地間競争の激化や農業生産性低下などの本事業地域の抱える問題に対処するため、基盤整備による農作業の効率化とともに農業経営の安定化を図る上で必要な事業であり、実施が妥当である。

(2) 事業位置図等



2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

事業着手以降、消費者から評価の高いシャインマスカットなどの高収益作物への転換を進めることで、安定的な生産が営まれていることから、区画整理の必要性は十分理解しつつも計画期間内での実施は難しいとの意見もある。

一方で、耕作放棄地が発生しているエリアでは区画整理実施エリアの影響を受けて、区画整理導入への気運が高まっている。

②産業・経済情勢

なし

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

やまなし農業基本計画(令和3年9月改定)

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点	変更計画時点
総事業費		1,900 百万円	2,717 百万円
工期		H24~H29	H24~R6
評価基準年		H23	R4
経済 効率 性	費用	1,850 百万円	2,542 百万円
	建設費	1,850 百万円	2,542 百万円
	便益	2,980 百万円	3,160 百万円
	作物生産効果	1,030 百万円	1,220 百万円
	営農経費節減効果	730 百万円	696 百万円
走行経費削減効果	670 百万円	706 百万円	
その他※	550 百万円	538 百万円	
B/C		1.6	1.2

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、品質向上効果、維持管理費節減効果、国産農産物安定供給効果

（3）これまでの計画変更等の概要

- ・農道の土質試験の結果、想定より地盤が軟弱であり路床の改良が必要となったため、セメント安定処理工の追加による事業費の増。
- ・農道の線形変更に伴い、ぶどう棚やハウスの移設が増えたことによる事業費の増。
- ・区画整理において、換地計画の合意形成に日数を要したため、計画期間を令和5年まで延期した。

（事業費） 467百万円の増

（計画期間） 6年延長

2.評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R4年度進捗率(現計画)97.0%→(実績)97.2%→(変更計画)84.7%

②進捗率実績が計画と相違している理由

計画どおり進捗

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
区画整理	66百万円 減	高収益作物への転換により、既に安定的な生産が開始されている計画箇所については、本事業から除外することによる事業費の減。
	316百万円 増	換地計画の変更と合わせて、水路網を再編したことによる事業費の増。
文化財調査費	100百万円 増	試掘調査の結果、当初想定以上の範囲に埋蔵文化財が確認されたため、調査費が増となった。
合計	350百万円の増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

換地計画の合意形成に期間を要していたが、換地計画が確定したため、計画的な事業実施に努め、事業期間を1年延長し、令和6年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

(5) 環境負荷等への配慮

なし

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 継続 見直し継続 ・ その他 ()

(理由)

果樹生産の強化を図り、農業経営の安定化を実現するのに不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し、令和6年度の完了を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100

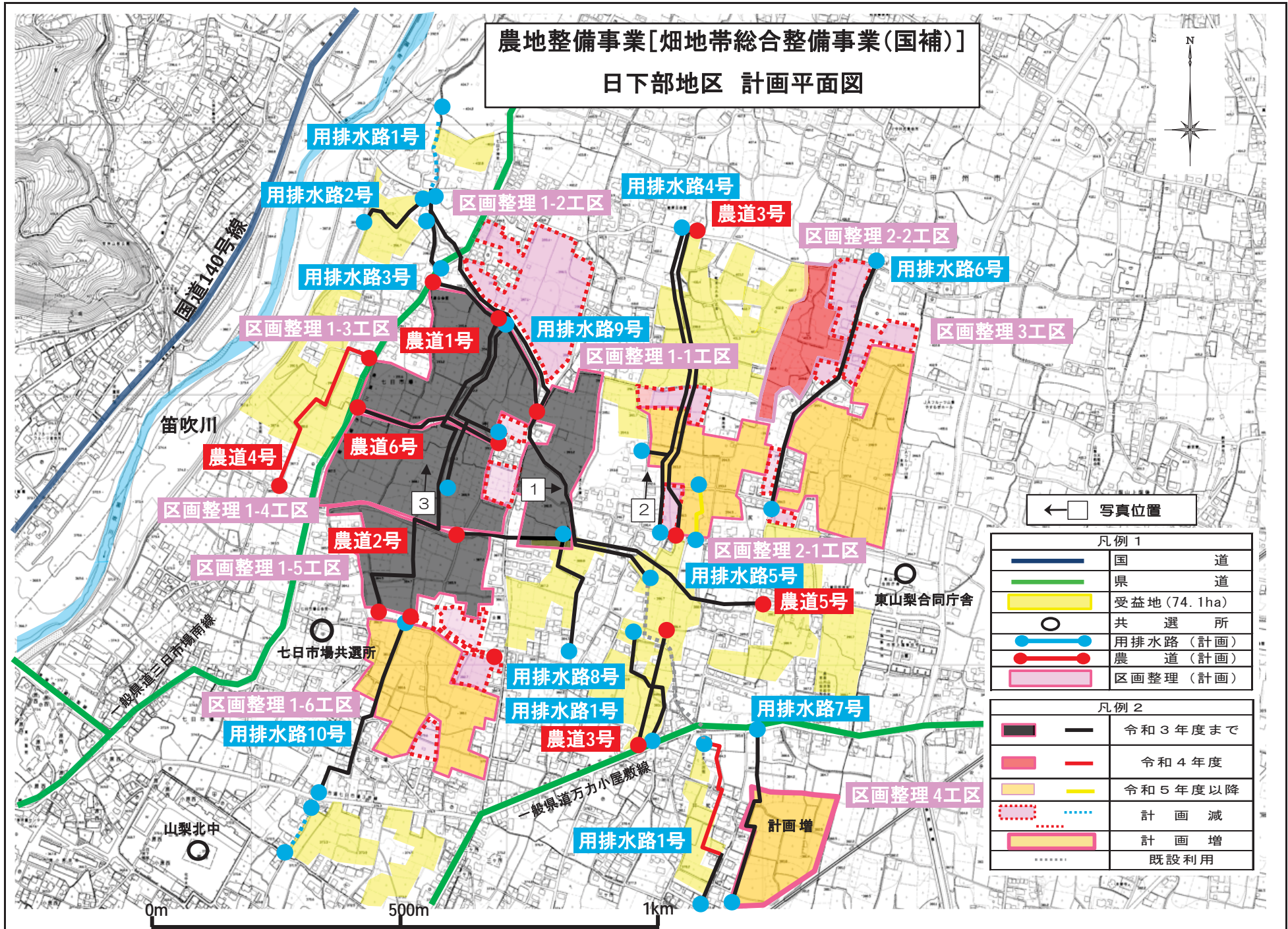
単位：%

	年度	*H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	*R4	R5	R6
現	計画	8.0	12.0	16.0	31.0	38.0	48.0	62.0	77.0	85.0	90.0	97.0	100	
	実績	7.9	11.2	15.5	30.4	37.4	47.6	61.5	76.4	84.3	89.9	97.2		
変更計画												84.7	92.4	100

*事業着手年度又は評価年度

*R4年度の実績は見込み

3. 添付資料シート(1)



3. 添付資料シート (2)

1 区画整理



- 各所有者の土地が分散していることや狭小で不整形であり、農道に接していない農地もあったため、農作業機械が乗り入れできないなど、営農効率が悪かった。



- 農地の集団化が進み、営農条件も改善されたことにより担い手への農地集積が可能となった。



- ほ場内に段差があり、農作業の支障となっていた。



- 段差を解消することで、区画を拡大し、農作業機械の導入が可能となり営農効率が向上した。

3. 添付資料シート（3）

2 用排水路

整備前



- 断面不足が原因で溢れ出た水により湿害が発生していたことや、石積みが崩れて閉塞するなどの維持管理に多大な労力を要していた。

整備後



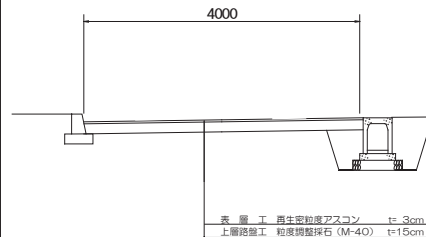
- 用排水路の整備により湿害が解消され、農作物の品質が向上した。また、維持管理の労力が軽減された。

3 農道

整備前



当初
(計画図)

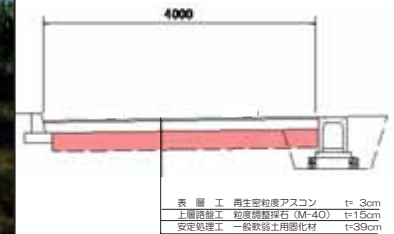


- 舗装が老朽化しており、農作物の荷痛みが発生していた。また、道路幅員が狭小なため車両のすれ違いができなかった。

整備後



変更
(計画図)



- 農道整備により、農作物の荷痛みが防止され果樹の品質向上につながっている。また、安全なすれ違いが可能となり、通作や集出荷の効率化が図られ営農条件が改善された。
- 農道の土質試験の結果、想定より地盤が軟弱であり路床の改良が必要となったため、セメント安定処理工が必要となった。

3. 添付資料シート(4)

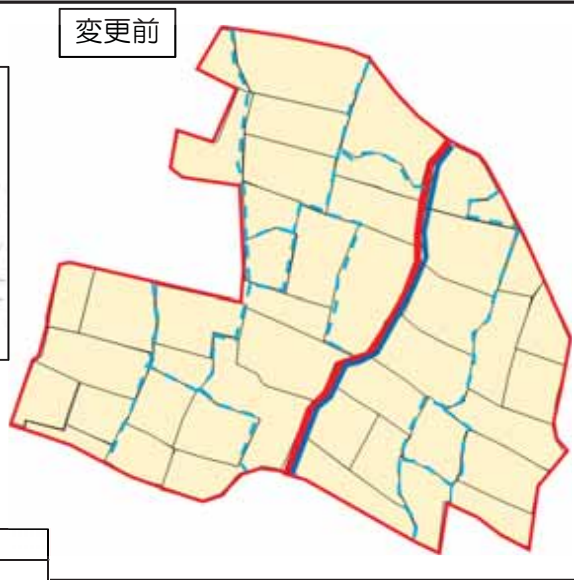
区画整理1-3工区

増額理由

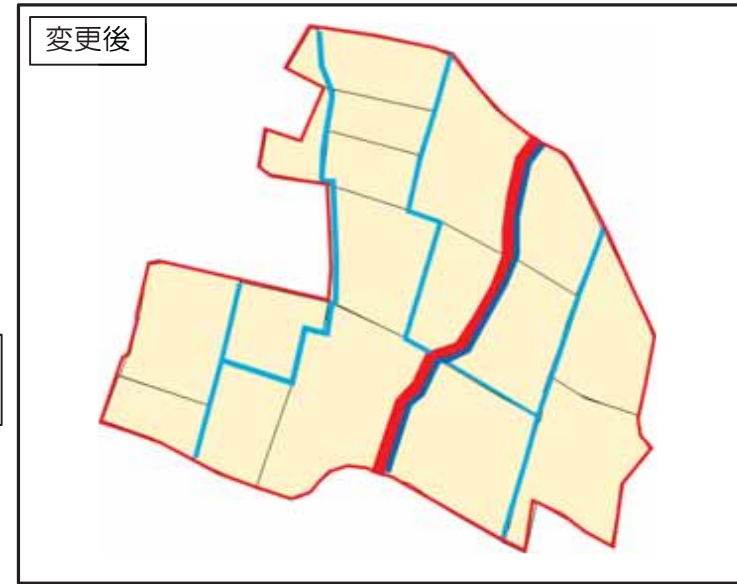
従前

変更前

変更後



(工区面積)
A=5.8ha



凡例	
農道2号	
用排水路9号	
区画整理内用水路	
既設水路	

46区画

18区画

従前



整備後



灌水状況



• 用水が豊富な地域で、開水路からポンプ等による灌漑を行っている。

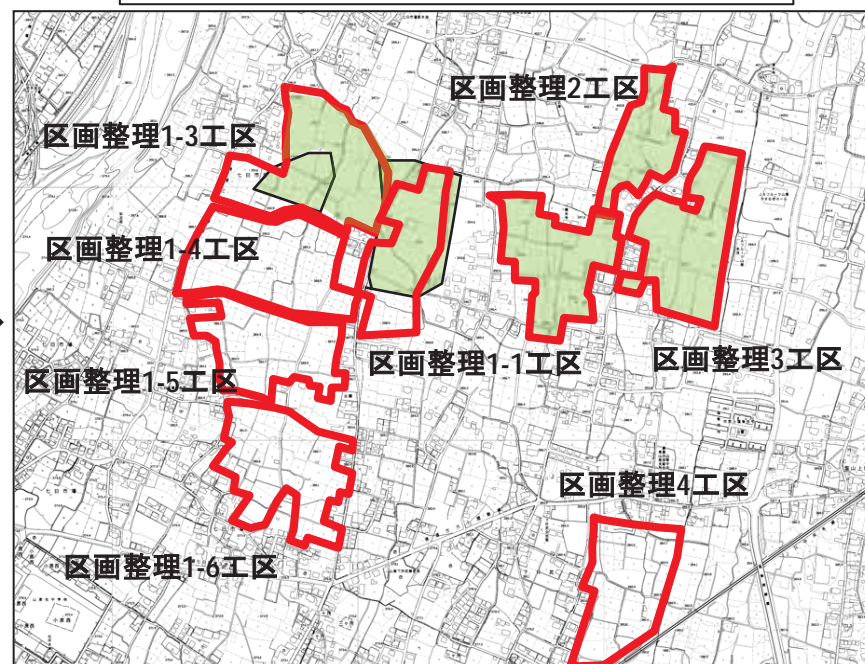
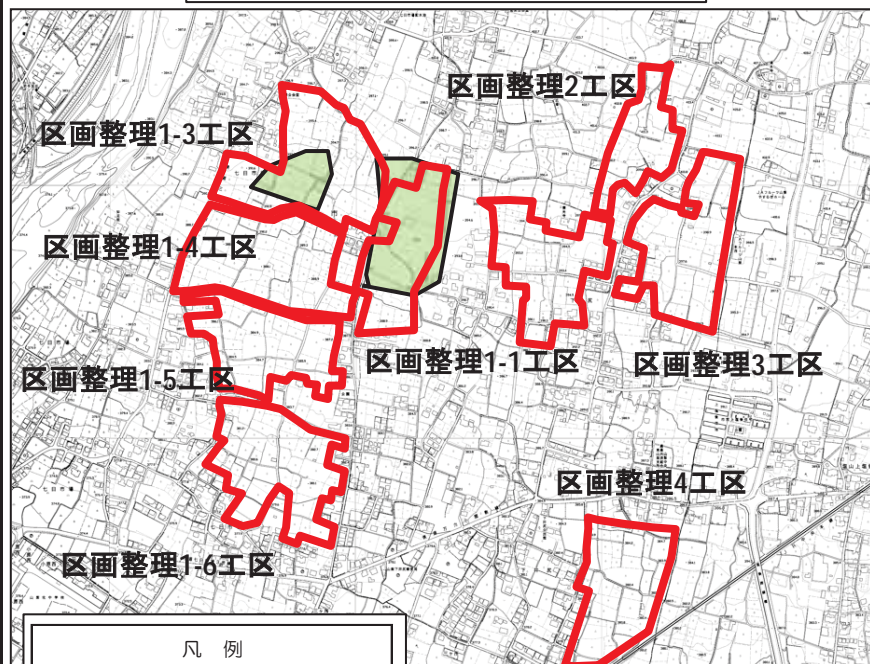
• 既設水路を利用する計画としていたが、さらに区画を拡大する換地計画の変更による水路工の増。
 • 区画整理と合わせてエリア内の水路を改修することにより、安全に灌漑できるようになった。また、支線水路を幹線水路に集約することができたため、効率的な水管理が可能となった。



3. 添付資料シート（5）

当初 埋蔵文化財調査範囲（想定）

増額理由

変更 試掘調査結果に基づく調査範囲



凡 例	
区画整理エリア	
文化財包蔵地範囲	

試掘調査後、遺跡が広範囲であることが判明し、山梨市教育委員会が埋蔵文化財包蔵地範囲の変更を行ったことから調査範囲が拡大した。



調査状況



出土の状況

調査は主に恒久的な工作物（農道、水路等）の整備箇所で行い、「縄文、古墳、奈良、平安時代」の遺跡や遺物が大量に確認されており、主に「竪穴住居」等が出土した。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H24	187,000	区画整理A=3.0ha、農道L=480m、 用排水路L=526m	6.9
H25	77,000	農道L=190m	9.7
H26	103,873	区画整理A=2.8ha	13.5
H27	352,000	農道L=203m、用排水路L=514m	26.5
H28	164,771	農道L=635m、用排水路L=444m	32.6
H29	242,000	農道L=392m、用排水路L=510m	41.5
H30	330,000	用排水路L=322m、区画整理A=5.4ha	53.6
R1	350,570	農道L=419m、用排水路L=771m	66.5
R2	220,000	区画整理A=3.5ha、農道L=410m、 用排水路L=474m	74.6
R3	100,126	区画整理A=4.1ha、用排水路L=490m	78.3
R4	172,700	農業用用水施設L=258m、農道L=360m、 区画整理A=2ha	84.7
R5	210,000	区画整理A=6ha	92.4
R6	206,960	区画整理A=7.5ha、用排水路L=98m	100.0
合計	2,717,000		